

# THE NEWZ

日本語版

# 09

July 2023



＼ 海外留学中の大学生が考える ／

## 日本と海外の医療制度の違い

# THE NEWZ

JULY 2023 VOL.9

日本語版

## CONTENTS



2 発行にあたって

\ 海外留学中の大学生が考える /

## 日本と海外の医療制度の違い

3 **アメリカ** 橋詰加菜

5 **アメリカ** 池田唯花

7 **イギリス** 山崎栞奈

9 **フランス** 助川実雨

11 **マレーシア** 丹治いつき

13 メンバー紹介

15 参考文献



撮影場所：フレンチレストラン Charlotte での食事（ポーランド・クラコウ）

撮影者：山崎栞奈

## 発行にあたって

日本の国民は国民皆保険制度の下、医療を享受する機会に恵まれてきました。

しかし少子高齢化の進行に伴い、若年層における社会保障費の負担増大が見込まれることに加え、コロナ禍で海外と比較した際の医療制度の欠点が露呈する等、現在、日本の医療制度を見直す必要性が高まっています。また、海外諸国と比べて医療サービスの受益者である患者（国民）の声が医療政策に反映されにくいという課題もあり、社会保障費の負担感が高い若者の間では、医療制度設計に参画したいとの声も高まっています。

この現状を踏まえ、新時代戦略研究所とジャパン・カウンセラーズは、将来の日本を担う若年層に向けて、今後の社会保障・医療保険制度や医療制度の在り方を考えるきっかけ作りとなる、マンスリー・レポートの発行を行うことしました。海外留学生が現地の医療制度と日本の医療制度との違いを象徴するようなエピソードを情報収集、取材し

て日本語、英語でレポートを執筆します。

タイトルの「The NewZ (ザ・ニューズィー)」は「Z世代」が意識されています。このニューズレターはプロジェクト立ち上げから原稿執筆、編集までのすべてを「Z世代」の大学生が中心となって担っています。読者の皆さんが自分の世代の医療制度、さらに

はその先の未来の医療制度に関心を持ってくだされば幸いです。



[英語版はこちら](#)

# アメリカと日本の歯に対する意識の違い

橋詰加菜

アメリカ・リンデンウッド大学



アメリカに行く際に、日本で保険に加入してから渡米する人が多いと思いますが、ほとんどの保険会社は歯科治療をカバーしていません。留学や仕事で長い期間アメリカに行く場合には、虫歯の治療や親知らずの抜歯を済ませてから行くことをお勧めします。私は親知らずが少し歯茎から出ている状態でアメリカに行き、途中で口を開けることもできないぐらいの痛みが出ました。日本のようにすぐに歯医者に行くことがで

きなかったので、とりあえず ADVILL というロキソニンと同じ成分が入った鎮痛剤を服用して痛みを抑えましたが、冬休みの帰国まで3ヶ月あり、歯の状態がすごく不安でした。この経験を踏まえて、歯は治療できる時にしておかないといけないということを痛感しました。今回はアメリカでの歯科治療やアメリカと日本の歯に対する意識の違いについて書いていきたいと思います。

## アメリカの歯医者の保険

ご存知の通り、アメリカの医療費は高いです。医療保険も基本的には歯科治療がカバーされていないものが多いので、歯医者に通いたい場合は歯科治療をカバーできる保険を探して加入する必要があります。治療費も、日本の歯医者での虫歯治療は1000円～1万円ですが、アメリカでは一番安い素材でも約\$210からになります。

アメリカで生活していて常に感じることは、たくさんの人の歯並びがいいということです。アメリカでは歯並びを小さい頃に治すのが当たり前なので、モデルや女優並みに歯並びがいい人が大勢います。また、ホワイトニングや市販されている歯磨き粉も日本と比べるとより強い成分が入っています。日本の葉機法は厳しいため、アメリカと同じレベルの歯磨き

## 矯正治療

歯科矯正医は英語で orthodontist と言います。歯科矯正をしたい場合は Orthodontist がいる歯科医院でないとできません。歯科矯正をしたい場合は、まず歯科矯正ができる歯科医院に行って、カウンセリングを受けます。その後、どれぐらいの費用がかかるのか見積もってもらい、保険会社に提出することでどれぐらいの費用がカバーされるかを知ることができます。

粉を市販することができません。アメリカのドラッグストアに行くと、歯磨き粉の種類が豊富なのと、ホワイトニングの製品がたくさん販売されていることに驚きます。アメリカで矯正をしている人の割合は約50%なのに対して、日本で矯正している人の割合は21%と半分以下の数字になっています。

海外の人は歯並びだけではなく、歯の白さにも気を配っています。アメリカでの歯科治療は高額なため、虫歯にならないように歯を健康に保つことを心掛けている人が多いです。定期検診に行く人の割合がアメリカでは75%、日本では約44%と、歯に対する意識の違いが現れています。

元々の歯並び状態や矯正器具の種類によって費用は異なりますが、保険適用なしで払う場合、一般的な銀色のものが\$3,000から\$7,000、セラミックタイプのものが\$4,000から\$8,000、内側に装着するタイプで\$8,000から\$10,000、インビザラインが\$4,000から\$7,400ほどとなっています。アメリカで働いている場合、セラミックのタイプで\$4000から\$8000なのは日本と比べて安いです。

## 日本と違う点

日本は国民皆保険でどここの歯科医院に行っても保険が適用されますが、アメリカでは自分の保険会社のネットワークに含まれ

る歯科医院でしか使うことができません。歯医者のホームページにも、その保険が適用されるかどうか記載されています。

## 歯科保険

nvestopedia（アメリカの、ビジネスのトピックについて発信している企業のサイト）によると、2023年でお勤めな歯科保険会社は Cigna、Renaissance Dental、Spirit Dental、Humana、UnitedHealthcare、Physical Mutual、Denta Dental です。保険会社によって、カバーできる金額の条件が異なったり、歯科矯正が含まれていなかったりします。また、保険会社によってウェイティングペリオドが設定されています。ウェイティングペリオドとは、その保険を購入してからその保険会社が定めるウェイティングペリオドの期間は治療を受

けたとしてもカバーされないというものです。ウェイティングペリオドの目的は、加入する人が治療を受けたい時だけ加入して治療が終わったら退会することを防ぐことです。また、保険会社にはネットワークがあり、その保険会社が認める歯科医院でないと治療を受けても保険が適用外となってしまいます。保険料も、加入している保険会社やプランによって異なりますが、月額約\$20から\$200になります。会社で保険に入っている場合はもう少し安くなります。

## 歯科矯正の保険の種類

アメリカの歯科保険にはいくつかタイプがあります。主な種類は、Preferred Provider Organization(PPO)、Dental Health Maintenance Organization(DHMO)、Indemnity Plans、Direct Reimbursement(DR)、Point of Service(POS)、Discount or referral plans、Exclusive Provider Organizations(EPO)、Table or Schedule of Allowances plans があります。

PPOとは、特定のネットワーク内にいる歯科医師が、保険会社によってカバーされるプランのことであり、保険会社との契約に基づいて費用が設定されます。このプランは一般的に、インプラント、歯科矯正、手術などの高額な治療が必要な場合に適用されます。また、Forbesによると、PPOのネットワークには腕の良い歯科医師がいることが多く、ネットワーク外の歯科医師による治療でも保険会社は治療費の一部を支払います。DHMOは、歯科医師が担当する患者一人につき、毎月一定の

額を支給する制度です。特定のサービスを無料または割引価格で提供することが求められます。DHMOは、通常、給付は無制限ですが、すべての処置に自己負担があり、より多くの制約があるため高価な処置には適用されない傾向があります。また、歯科医師への報酬が比較的低いため、多くはDHMOに参加しないことを選択します。

Indemnity plans(保証プラン)は、保険会社が治療内容によって請求額を支払うものです。患者は医師を選ぶことができます。DRでは、先に患者が請求額を支払い、後から保険会社に請求することで保険適用額が払い戻されるというものです。

Point of Serviceでは、ネットワーク外からマネージド歯科プランに加入している患者が治療を受けられるという取り決めです。その患者は払い戻しを受けることができますが、ネットワーク内で治療を受けたときと比べると、ベネフィットは低くなります。

## まとめ

アメリカの医療制度を見てみると、プランだけでもたくさんの種類がありすごく複雑だと思いました。歯を大切にすることは

とても重要なことなので、私も自分の歯をより大事にしようと思いました。

# メンタルヘルスケアにおける日米比較

池田唯花	アメリカ・ワシントン大学
------	--------------



メンタルヘルスについて皆さんはどのようなイメージがありますか？また自分自身のメンタルヘルスについてきちんと把握していますか？

私がアメリカ生活で何よりも驚いたことは、現地の人々がたかも昨日の出来事を話すかのように、自身のメンタルヘルスについてオープンに話すことです。例えば、「この前こんなことがあってずっと落ち込んでいたからカウンセリングに行ったんだよね。」や「自分はこういうときに落ち込みやすいから、そろそろメンタルヘルスケアちゃんとしないと。」というようにカウンセリングに行くことが身近なことで、自

分にとって何がストレスの原因なのかを把握している人が多いのです。私が日本で風邪をひいた場合、病院へ行き薬を貰ったり、風邪の原因を振り返ったりすることがあります。しかし、これがメンタルヘルスになった途端、そもそも向き合おうとしていないなと感じました。しかしながら、このアメリカでの経験が自身のメンタルヘルスと向き合うきっかけを与えてくれ、私自身にとって何がストレスかを把握しそれに対する対処法を身に付けられつつあります。よって、今回はそんなメンタルヘルスにおける日米比較について話したいと思います。

## 日本におけるメンタルヘルスの現状と取り組み

日本におけるメンタルヘルスに関する意識や行動について、20代から60代の働く男女を対象に行ったAIG総研インサイトの調査によると、「過半数の人が不眠などのうつ病の初期症状を経験している」、「メンタルヘルス不調への対処法として、大多数の人々が『自力で対処』を第一の選択肢として想定している」、「約半数の人々が精神科・心療内科の受診に抵抗感を感じており、その要因として治療に伴う費用、さらには病そのものに対するネガティブイメージが伺える」というような結果が明らかになりました。この調査結果から、日本人の過半数はうつ病の初期症状を経験したことがあるのにも関わらず、精神科・心療内科に対する抵抗感がかなり強いことが伺えます。

これはなぜなのかと調べていったところ、日本の文化が関連しているということがわかりました。それは『我慢が美德』という日本ならではの根強い考え方が存在しているからで

す。『我慢』の捉え方にもよりますが、肉体的・精神的にも負担が多くネガティブにやり過ごしている場合は、それが慢性的な疲労となり、うつ病といった精神的症状として現れることが多いでしょう。またこの考え方が原因となって、日本ではメンタルヘルスのことを他人に話すこと自体が『忍耐力のない人間だと思われるのではないか。他人よりも劣っているのではないか。』と憚られるのかもしれませんが。厚生労働省のメンタルヘルス対策（心の健康確保対策）に関する施策の概要を調べたところ、職場復帰支援といったメンタルヘルスで治療が必要な問題が生じてからの社会復帰等が国の支援としてありましたが、その経緯に至るまでの具体的な国としての施策はありませんでした。その一方でアメリカにはメンタルヘルス不調の初期段階でのサポートや繰り返さないためのカウンセリングなどが学校（コミュニティ）単位で行われている印象があるので、紹介していきたいと思います。

## アメリカにおけるメンタルヘルス現状と取り組み

最初に私がメンタルヘルスケアの情報を得たきっかけは、大学のオリエンテーションでした。学校の設備紹介等とともに、メンタルヘルスケアについての案内の書類が渡され（もしかしたら私が留学生ということもあり渡されたのかもしれない

な）衝撃を受けました。そして冒頭で述べたように、日常生活においても「今日ちょっと体調が悪い」というような感覚で友人たちがメンタルヘルスについて話していたことにも驚きました。



[ カウンセリングセンターの案内 ]

上記の写真からも分かるように、カウンセリングセンターでは心理学者やメンタルヘルスカウンセラーなどの専門家が短期個人カウンセリングやグループカウンセリングの機会を提供しています。また、大学のホームページではマインドフルネスプログラムの提供や日常生活におけるメンタルヘルスをサポートする習慣やアプリの紹介がされています。これらの

### 橋詰

Cost of treatment for rotten teeth

<https://omegadentists.com/blog/rotten-teeth-symptoms-treatment/#:~:text=Cost%20of%20Rotten%20Teeth&text=Amalgam%20fillings%20costs%20range%20%24210, costs%20range%20%24300%20to%20%234%2C500>  
Dental Insurance in the U.S.



[ 大学 HP にメンタルヘルスケアについての案内や情報が多く記載されている。 ]

サポート体制は、私が通っている大学だけでなく、私が現在住んでいるシアトルの多くの地域でも同様のサポートが提供されています。したがって、学生だけでなく地域単位で（行政ごとに）メンタルヘルスに対する予防から再発防止までのサポートが提供されています。

# 食における健康意識の違い

山崎葉奈

ロンドンで就労中（金沢大学休学中）



## 海外の食べ物は高カロリー？

皆さんは、海外の食べ物にどのような印象をお持ちでしょうか。アメリカ料理はジャンキーなものが多く、ハンバーガーやホットドッグなどが代表的な料理です。また、イタリア料理はピザやパスタなど炭水化物を多く含む料理が多いというイメージが一般的です。和食と比較すると、海外料理は高カロリーで不健康なイメージがあり、食べ過ぎや肥満の問題も連想されます。アメリカやヨーロッパの食べ物は高カロリーなものが多いため、栄養バランスや健康の面で見ると、和食が一番優れているのではないかと感じていました。日本のテレビ番組では、和食が健康的で世界から注目されているという情報が何度か特集されていたため、

## 代替ミルクが多数派

まずは少しだけイギリスのコーヒー文化についてご紹介します。日本とイギリスではコーヒー文化の違いも顕著です。イギリスといえば紅茶、といったイメージを持った人も多くいるかと思えます。しかし、私はロンドンに来たことで、そのイメージが完全に払拭されました。実際は大多数の人が紅茶よりもコーヒーを頻繁に飲んでいるのが現状です。私の勤務先のカフェにもメニューに紅茶がありますが、紅茶を頼むお客さんは本当に稀で、驚くことに全体の1割にも満たないのです。実際にイギリスの大手新聞社の Metro 「Forget the classic builder's brew, Brits now prefer coffee to tea」と題した記事では、イギリス人の半数以上が紅茶よりもコーヒーを好むと書かれています。コーヒーに関しては、ブラックよりもミルクベースの FlatWhite や Cappuccino を飲む人が圧倒的に多く、Americano を頼む人でも少量のミルクを追加する人が一定数います。前述した紅茶に関しても、ストレートではなくミルクを追加してミルクティーとして飲むのが多数派であり、98%の人が紅茶にミルクを入れて飲むと言われています。このように、日本に比べるとミルクをコーヒーに入れて飲む人が多いイギリスですが、半数以上の人は牛乳ではなく、代替ミルクを飲みます。代替ミルクというのは、牛乳などの動物性ミルクの代替となるもので、主に植物性ミ

そのイメージが強く植え付けられていました。しかし、ロンドンのカフェで働いた経験を通じて、現地の人々の食に対する健康意識の高さを目の当たりにしました。ヨーロッパの人々は、自然食品やオーガニック食品に対する関心が高く、健康に配慮した食事を選ぶ傾向があります。地元の市場では、新鮮な野菜や果物、オーガニックな食材が豊富に取り扱われており、人々が積極的に購入している様子が見受けられました。この経験が、私の「日本の食事が最も健康的である」というステレオタイプを見直すきっかけになりました。

ルクのことを指します。代表的な代替ミルクには、オートミルク、ソイミルク、アーモンドミルク、ココナッツミルクなどがあり、ロンドン市内のカフェにおける代替ミルクの取り扱い率は100%と断言していいでしょう。旅先でもカフェに行くことが多いのですが、ヨーロッパを10カ国ほど旅行して訪れたカフェで代替ミルクを取り扱っていない場所は一つもありませんでした。バリスタの立場から見ても、半数以上の人々が代替ミルク、特にオートミルクを頼む傾向にあると感じます。イギリスのZ世代の約半数が人前で牛乳を注文することを恥じる、といった調査結果からもわかるように、代替ミルクを飲むことが彼らにとって一つのトレンドであることがわかります。植物性ミルクは、動物性ミルクと比べて消化しやすく、乳製品アレルギーや乳糖不耐症の人に適しているという健康面での利点があります。また、畜産業に比べて温室効果ガスの排出量が低く、水使用量と土地利用も少ないため、環境に負荷をかけません。これらにより、持続可能な選択肢として植物性ミルクが一般的になっています。イギリスのみならずヨーロッパ全体で代替ミルクが一般的になっていることから、西洋人の健康や環境に対する意識の高さが伺えます。



[様々なブランドからオートミルクが発売されています。]

## ビーガンメニュー・オーガニックが当たり前

ロンドンでは、レストランやカフェに行くと、最低1つはビーガン向けのメニューがあります。ラーメン屋さえも、ビーガン向けのオプションがあります。その上、農業や化学肥料などの化学物質を使用せず、自然の力を生かして生産される農産物や加工食品であるオーガニック食品の普及も顕著です。“Gluten free”、“Vegan”、“Organic”、この3つのキーワードは、イギリスのスーパーや飲食店でよく目にする言葉です。これらビーガンやオーガニック食品を使用することは、健康のためだけでなく、動物や地球環境への配慮の意識が関係しています。むしろ、動物や地球環境への配慮という目的が第一にあり、自身の健康は付随的な目的であるようにも感じます。

## まとめ

食に対する健康意識は個人や地域によって異なるため、一概にヨーロッパの人と日本人を比較することは難しいですが、想像以上にヨーロッパの人々の食に対する健康意識が強いことを感じました。一方で、日本人の食に対する健康意識も非常に高いと言えます。日本の伝統的な食事である和食は、栄養バランスが取れており、野菜や魚、大豆などの健康的な食材が積極的に摂取されています。

また、先日旅行でデンマークに行った際、スーパーに並んだ野菜の半分以上にオーガニックマークがついており、オーガニック先進国であると感じました。デンマークは、オーガニックの規準を初めて設けた国であり、デンマーク人の約52.5%が毎週オーガニック商品を購入していると報告されているほどのオーガニック大国です。デンマークのオーガニック規準は、基本的にはEUの基準（IFOAMの規定を基にしています）に準拠していますが、さらに厳しい規定も設けられています。EUで承認されている390種類の食品添加物のうち、オーガニック農法での使用が許可されているのはわずか53種類です。

両方の文化において、食に対する健康意識が高い人々が存在し、それぞれの特徴や環境に応じた健康的な食事を心掛けています。食に対する健康意識は個人や地域によって異なるため、一般化することはできませんが、日本と比べるとより多くのヨーロッパの人々が環境や持続可能性を配慮した食選びをしているのではないのでしょうか。

# 女性主体の避妊法における日本とフランスの差

助川実雨

フランス・パリ政治学院



## 自分の体は自分のもの。

一見当たり前のように聞こえるかもしれないこの一文は実は女性にとって、とても難しいことです。妊娠するという事は、女性の人生を大きく変化させます。妊娠するためには異性二人が必要なにも関わらず、妊娠は女性しかできないことからそ

の負担はどうしても女性に偏ってしまいます。このため女性が自分で妊娠もしくは避妊という選択をするというのはとても大切で守られるべき権利なのです。

## 女性主体の避妊法が使えない日本

避妊法は数多くある中、日本で圧倒的に使われているのがコンドームです。しかしコンドームは男性が着用することから女性が使用を強制できるものではありません。妊娠するのは女性なのに、着用を男性に「お願い」することしかできません。他にもコンドームは避妊効果が85%しかなく、破れるといったリスクも存在します。では女性は自分の体を守るためになにができるのでしょうか？

望まない妊娠を避けるために用いる女性主体の避妊方法の一つが経口避妊薬の服用です。その名の通り経口避妊薬とは避妊効果の得られる女性ホルモン剤であり、エストロゲン配合量の違いや用途の違いによって大きく3種類があります。一つ目が避妊や生活改善のために処方され、日常的に服用する必要がある低用量ピルです。二つ目が低用量エストロゲン・プロゲステロン配合薬（LEP）です。低用量ピルとほとんど同じ成分を持つにも関わらず、月経困難症や子宮内膜症向けに処方される保険適用の薬として別の呼称を持っています。最後に中用量ピルもしくは緊急避妊薬があります。性行為の後、72時間以内に服用することで、妊娠を85%程度予防できる性質からアフターピルとも日本では呼ばれています。

しかし日本での経口避妊薬の服用には二つの問題があります。一つ目の問題は価格が高く、産婦人科医の処方が必要なことから手に入れにくいことです。二つ目は日本では低用量ピルの服

用に対する偏見が深く根を張っていることです。まず前者についてですが、日本では低用量ピルと緊急避妊薬の処方自由診療の扱いであるため、薬の値段はクリニックによって異なり、また、保険適用外の診療なので費用は全額患者の自己負担になります。低用量ピルの多くは毎月2000～3000円の薬代がかかり、診療代も合わせると一万円程度かかる場合もあります。さらに緊急避妊薬は服薬が行為後遅ければ遅いほど避妊効果が減少するため、土日祝日関係なく、身近な場所で入手できるかどうか避妊の成否を大きく左右します。しかし日本では、医療機関への受診と処方箋が必要なため、病院が遠い過疎地だったり、土日や休日を挟んだりした場合に72時間のタイムリミットを過ぎてしまう可能性があるのです。

価格の低下や手に入れやすさの改善が進まなかったのは二つ目の問題である偏見が深く関わってきています。経口避妊薬の服用は「性生活の乱れ」と見られることが多く、望まない妊娠は「自業自得」だと考える人がいまだにいます。実際私の周りにも「低用量ピルを服用していることを伝えると色眼鏡で見られる」と悩んでいる同級生もいました。また、低用量ピルは経血量の減少、それに伴う貧血軽減、生理痛などの軽減、ニキビや多毛の改善など避妊目的以外にも様々な用途があるにも関わらず偏見が服用を妨げている面もあります。

## 避妊は「権利」のフランス

フランスにおいて避妊および経口避妊薬の服用は女性の当然の権利として扱われています。日本とは違い、フランスでは産婦人科医ではなくかかりつけ医の処方箋で低用量ピルが全ての薬局で変えます。低用量ピルの価格は約3カ月分が入っている1パッケージが3～4ユーロ（約500円）と日本に比べてかなり安価だけではなく、保険が適用されるため自己負担35%

で購入できます。前述したように服薬のタイムリミットが存在する緊急避妊薬は1999年から市販化されており、その翌年の2000年から未成年は街角の薬局や校内医から匿名且つ無料で入手できるようになりました。これは妊娠の理由が合意の性行為だけではない以上、「なぜ妊娠してしまったか」よりも、その妊娠が女性の心身・人生に及ぼす影響を重要視するためです。



【フランスで入手できる経口避妊薬】

そして2022年9月、フランス政府は2023年以降25歳未満のすべての女性を対象に避妊法利用を無料化すると発表しました。経口避妊薬のほかに、避妊リング（IUSデバイス）や避妊用インプラント、さらには避妊のための医療機関受診料も無料になります。フランスの保健大臣はこれについて「一定数の若い女性の間で避妊法の使用が減少しており、その主な理由は経済的なもの。女性が自分の身を守ることができず、避妊をしたいと思っても、経済的余裕がないために避妊できないというのは受け入れが

## 中絶について

日本では長い間中絶は外科的な手術によってのみ可能でした。しかし2023年4月末に日本ではようやく経口中絶薬が承認されました、フランスでは35年前である1988年に承認されています。3月末に政府が経口中絶薬についてパブリックコメントを募集しており、それを受けての今回の承認のため、中絶薬を望む声の多さ、そして声をあげることの大切さが分かりました。しかし、日本の中絶は元々自由診療の扱いで100%自己負担の

## 最後に

今回のレポートでは自分の体は自分のものという観点からフランスと日本での経口避妊薬の扱いの違い、そして中絶についてお話ししました。日本では低用量ピルと口にすることすら何となく躊躇われており、生理同様一種のタブーとなっています。「彼氏と話しして低用量ピルを服用し始めたの」と語ってくれたフランスで出会った友達はきっとこんな躊躇いは持っていなかったのだでしょ

たい」と述べています。さらに2022年11月、性感染症や望まない妊娠の予防を目的に、政府は2023年から若者を対象に薬局でコンドームを無料化することを発表しました。フランスだけではなくドイツやイギリスでも同様の動きが見られます。避妊の権利は守られるべきであり、医療体制によってサポートされるべきではあっても妨げられるべきではないというのが世界の共通認識です。

ため、経口中絶薬も高くなるのでは、という懸念が現在あります。しかしフランスを始めとする欧米諸外国では、中絶の手術も経口中絶薬も100%保険でカバーされます。フランスでは中絶する権利は人権宣言2条に基づくものとし、憲法的価値を認めています。すなわち妊娠および中絶とは「生殖に関する自己決定」という狭い権利ではなく、より根源的な自由として位置づけられているのです。

う。  
自分の体は自分のもの、この「当たり前」を日本でも広めるためにはまず私たちの意識から、そしてゆくゆくは日本の医療体制を変えていく必要があります。このレポートが少しでもその変化に貢献できたのなら何よりです。

# オーストラリアと日本の安楽死について

丹治いつき

マレーシア・モナッシュ大学

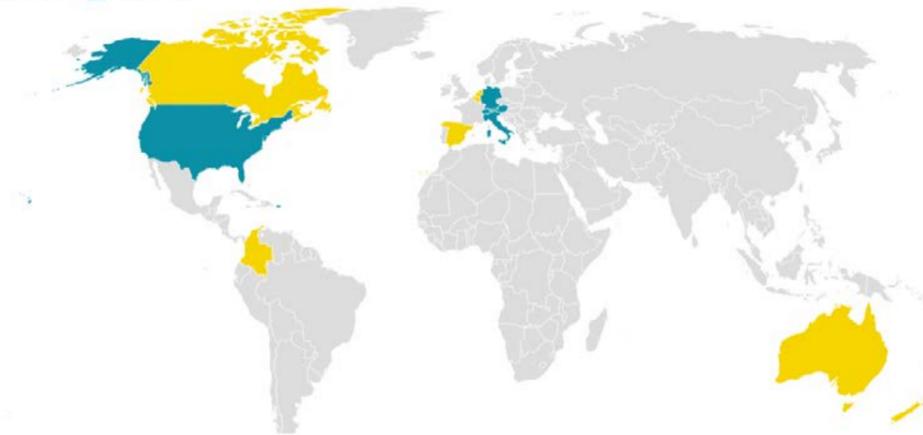


## はじめに

皆さんは安楽死や尊厳死についてどうお考えでしょうか。安楽死とは患者本人の希望により、医師が薬物を用いたり、治療を止めたりすることで患者を死に至らしめることを指します。一般的にこの用法は終末期医療患者に対して用いられ、医師は故意に患者を死なせることになります。また、尊厳死とは自然死とほとんど同じ意味になります。人生の最終段階において無理に延命治療をしなかったり、延命治療を中止することで、自然な経過に任せた死のことを指します。尊厳死においては、「死期が近い」「本人が文書などで尊厳死の希望を表明している」「家族も同意している」といった条件が必要です。しかし、日本において安楽死は法的には認められていません。安楽死は、刑法第202条の嘱託(同意)殺人罪

となります。本人が希望していた場合でも、故意に人を死なせることはやはり殺人と同等の罪となっています。また、尊厳死についても合法化されていませんが、厚生労働省や日本医師会が尊厳死に関するガイドラインを策定しています。そのガイドラインに基づき、近年は患者本人と医師、患者の家族が合意すれば尊厳死が許されるという考えが医療の現場で徐々に容認されてきている傾向があります。しかし、基本的には日本では安楽死も尊厳死も合法化されていないため、合法化についての議論が長年行われているのが現状です。そこで、今回は安楽死と尊厳死が合法化されていない日本と合法化されているオーストラリアについての現状をより詳しく触れていきます。

■ 積極的安楽死 ■ 自殺ほう助



[世界における安楽死を認めている国々]

## 日本における安楽死・尊厳死の世論

日本での安楽死法制化に対する意見は様々です。容認する意見としては、「患者の意思を尊重すべき」、「死期も自由に決められるべき」等が挙げられます。実際、患者の中には家族や医師といった周りの方々にこれ以上迷惑をかけたくないと

いった考えを持った方も多くいます。一方で、反対派としては、「安楽死を認める条件を法制化しても、医師の判断にばらつきが出るのが懸念され、難しいのではないか」、「医療者の共感によって判断されてしまうのではないか」等の意

見があります。実際、これまで日本では安楽死に関する事件がいくつか起きています。一つ目の事例として、東海大学安楽死事件があります。1991年、東海大学病院に入院していた患者に対し、家族の強い要望があったことから、医師が薬物を投与して死に至らしめました。しかし患者本人の死を望む意思表示がなかったことから、この医師は裁判で故意に人を殺したとして殺人罪で起訴され、懲役2年、執行猶予2年の有罪判決を受けました。二つ目の事例として、ALS 嘱託殺

人事件があります。2020年11月、難病のALS(筋萎縮性側索硬化症)を患っていた女性から依頼を受け、その女性患者に対して薬物を投与して死なせたとして、医師2人が嘱託殺人の疑いで逮捕・起訴されました。このように、日本ではまだ安楽死や尊厳死が合法化されていないため、実際に補助した医師は患者のためを思って薬物を投与した場合でも逮捕・起訴されています。

## オーストラリアにおける安楽死

オーストラリアでは、2017年にメルボルン等が位置するビクトリア州で安楽死を認める「自発的補助自死法 (Voluntary Assisted Dying Act)」が成立しました。さらに、2019年には、西オーストラリア州において、そして2021年にはタスマニア州と南オーストラリア州においても同様の法律が成立しました。それらの法律では、実際に安楽死を容認するにはいくつかの条件があります。それは各州に住む18歳以上で、意思決定能力があり、耐え難い苦痛を抱える、余命の限られた末期患者に対して、自ら命を絶つために医師に致死薬を要請する権利が認められるというものです。実際に、2019年6月19日に施行となり2019年の6月～2020年の1月の間に52人が安楽死を選択しました。また、ビクトリア州保健省の発表によると、6か月間に実施された52人のうち、9人が医師による静脈注射での薬品の投与で、43人は処方された薬物を自身で摂取するという方法によるものでした。そして、安楽死の合法化に伴い、ビクトリア州では予想を上回る人数の申請や問い合わせがあったとされています。2020年6月の発表では、施行から約1年で400件もの問い合わせがあったようです。

安楽死の合法化が認められたオーストラリアで、最初に認可されたのは、メルボルン郊外のベンディゴに住むケリー・ロバートソンさん(61歳)でした。彼女は10年もの間、乳がんの闘病をしてきましたが、全身へのがんの転移が確認され、放射線治療を中止しました。2人の娘とともに話し合った結果、医師の認定を受けてから26日目に送られてきた処方薬を服用して自宅で2人の娘に見守られながら、安らかに亡くなられています。

しかし、オーストラリアでは安楽死が合法化されたとはいえ、様々な問題点があります。まず、家族の承認を取る必要があり、その後州の許可を取るために2名の専門の医師と面談して署名を取る必要があります。そして、承認を得た後に許可手続きをしなくてはならないのです。その他にも、専門医の不足やリモートでの診断が出来ないといった問題点も上がってきています。これらの問題点に加えて、オーストラリア国民の間で安楽死についての意見が大きく分かれているのも現状です。命に関わる



[安楽死したケリー・ロバートソンさんと2人の娘]

## 最後に

日本では、未だ安楽死は合法化されていませんが、尊厳死については徐々に容認されている状況です。そのため、オーストラリアやヨーロッパといった安楽死を合法化している国々の現状を参考にすることで、これからどのような取り組みをしていくことが適切か判断することができると思います。個人的な意見として、日本も他国に続いて安楽死の合法化をすべきだと考えています。安楽死を求めているのは、病気によって苦しんでいる患者本人であり、彼らの意見を第一に尊重すべきだと思います。

# [ Members ]



橋詰加菜（はしずめかな）

リンデンウッド大学

ニュースレターを通して、多くの方が医療制度の違いについて関心を持っていただけたら嬉しいです。今後もよろしくお願いします。

池田唯花（いけだゆいか）

ワシントン大学

ニュースレターの製作に携わることができてとても嬉しい気持ちです。よろしくお願いします。



山崎栞奈（やまざきかな）

ロンドンで就労中（金沢大学休学中）

The NewZ のレイアウトやデザインにも携わっています。これからよろしくお願いします。

助川実雨（すけがわみう）

パリ政治学院

フランスに来てから医療保険の大切さを改めて学びました。ただ加入の面倒臭さは両国変わらないのでペーパーレス化を進めて欲しいです。



丹治いつき（たんじいつき）

モナッシュ大学

マイナーな国であるマレーシアの医療制度について発信できることを嬉しく思います。これからはマレーシア以外の国の医療制度についても発信していきます。



岡河萌（おかがわもえ）

函館大学

The NewZ に編集担当として携わりました。このニュースレターが世界や日本の医療制度に関心を持つきっかけとなれば幸いです。The NewZ は月1回のペースで配信予定なので、ぜひ次号もお楽しみください。



# 参考文献

## 橋詰

### Cost of treatment for rotten teeth

<https://omegadentists.com/blog/rotten-teeth-symptoms-treatment/#:~:text=Cost%20of%20Rotten%20Teeth&text=Amalgam%20fillings%20costs%20range%20%24210, costs%20range%20%24300%20to%20%234%2C500>

### Dental Insurance in the U.S.

<https://www.forbes.com/health/body/does-dental-insurance-cover-braces/>

### 日本で矯正をしている割合と世界との比較

### Statistics on Oral Health in the U.S.

<https://expressdentist.com/dental-statistics/#:~:text=75%25%20of%20American%20adults%20plan, visit%20within%20the%20past%20year.>

### 1年に1回以上定期的に歯科検診を受けている人の割合

[https://www.lion.co.jp/ja/news/2022/4120#:~:text=%EF%BC%88%EF%BC%91%EF%BC%89%E3%80%8C%E6%AD%AF%E7%A7%91%E5%8C%BB%E9%99%A2%E3%81%A7,%E3%81%A7%E3%81%97%E3%81%9F\(%E5%9B%B31\)%E3%80%82](https://www.lion.co.jp/ja/news/2022/4120#:~:text=%EF%BC%88%EF%BC%91%EF%BC%89%E3%80%8C%E6%AD%AF%E7%A7%91%E5%8C%BB%E9%99%A2%E3%81%A7,%E3%81%A7%E3%81%97%E3%81%9F(%E5%9B%B31)%E3%80%82)

### Best Dental Insurance Companies

<https://www.investopedia.com/best-dental-insurance-4843282>

### Waiting Period

<https://www.investopedia.com/terms/w/waiting-period.asp>

## 池田

### AIG 総研インサイト

<https://www-510.aig.co.jp/assets/documents/institute/insight/institute-insight-03-ja.pdf>

### こころの耳

<https://kokoro.mhlw.go.jp/guideline/guideline-mental-health/>

### UW counseling center

<https://www.washington.edu/counseling/resources/>

### NAMI Seattle

<https://namiseattle.org>

### WHO suicide data

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/suicide>

## 山崎

### METRO

<https://metro.co.uk/2023/04/27/forget-the-classic-builders-brew-brits-now-prefer-coffee-to-tea-18683365/>

### IPSOS

<https://www.ipsos.com/en-uk/almost-half-uk-adults-set-cut-intake-animal-products#:~:text=Among%20Brits%2C%2048%25%20of%20British,as%20part%20of%20their%20diet.>

### VEGAN NEWS

<https://vegnews.com/2022/5/gen-z-ashamed-to-order-milk-in-public>

## 丹治

### 【オーストラリアの安楽死事情】半年で52人が実施

<https://cpinter.biz/euthanasia/>

### 安楽死が認められている国はどこ？

<https://www.swissinfo.ch/jpn/society/%E5%AE%89%E6%A5%BD%E6%AD%BB%E3%81%8C%E8%AA%8D%E3%82%81%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E5%9B%BD%E3%81%AF%E3%81%A9%E3%81%93--/47739244>

### 日本でも“認められた安楽死”がある？ 延命と死の自己決定を考える

<https://shiruto.jp/culture/1175/>